

### 視点3 自然への恩恵等の感謝，環境の調和

重点行動3 - : 体験をとおして食を大切にする心を育む

#### ア．農業体験学習等実施状況

項 目	県の現状値	町の現状値 (平成19年度)	町の現状値 (平成23年度)
農業体験学習に取り組む小・中学校の割合 (教育ファームに取り組む小・中学校の割合)	68% ( )	75% (62.5%)	88.9% (77.8%)

教育ファームとは...

子どもから大人まで、生産者の指導の下「種まきから収穫まで」の一連の農作業を体験します。その中で体験者が自然の恩恵に感謝し、食に関わる活動への理解を深めることを目的としています。

具体的には「体験者が、実際に農林水産業を営んでいる方の指導を受け、同一作物について2つ以上の作業を、年間2日以上行うこと」と、定義しています。

#### イ．宮床ふれあい農園利用状況 (全68区画)

	平成23年度	平成24年度	平成25年産
利用区画数	68区画	68区画	68区画
利用人数	68人	67人	68人
利用率(%)	100.0	98.5	100.0



## 視点3 自然への恩恵等の感謝，環境の調和

### 重点行動3 - : 地産地消の推進

#### 地産地消の状況

##### ア．大和町の学校給食での地場産品の使用品目数（黒川郡内）

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
使用品数	9品目	8品目	9品目	12品目	13品目

学校給食での地場産品数は増加している傾向です。

特に大和町の特産である舞茸やしいたけなどのきのこ類や岩魚などさまざまな献立のアレンジをして提供しています。

##### イ．完全給食実施校のうち米飯給食を週3回以上実施する小中学校の割合

全国平均値 (平成22年度)	県の現状値 (平成21年度)	町の現状値 (平成20年度以降)
99.9%	98.5%	100%

今後も町内産のお米を使い米飯給食を週4回実施していきます。

##### ウ．農産物販売所施設や体験交流施設等の増加

県の現状値(平成24年度)	町の現状値(平成24年度)
275箇所	6箇所

今後、町内の施設については増える予定は特にありません。

##### エ．環境保全米づくりの取り組み状況

	水稻作付面積	うち環境保全米 作付面積	環境保全米 作付割合
平成19年産	1,563.9ha	150.2ha	9.6%
平成20年産	1,514.7ha	294.4ha	19.4%
平成24年度	1,546.2ha	470.7ha	30.4%

平成24年度の環境保全米の作付面積は平成19年度と比較すると3倍以上となっています。年々、作付面積が増えています。



環境保全米とは  
なるべく環境に負担をかけないよう、農薬や化学肥料を従来の半以下に減らし、消費者・生産者の健康を考え大切に育てられたお米です。

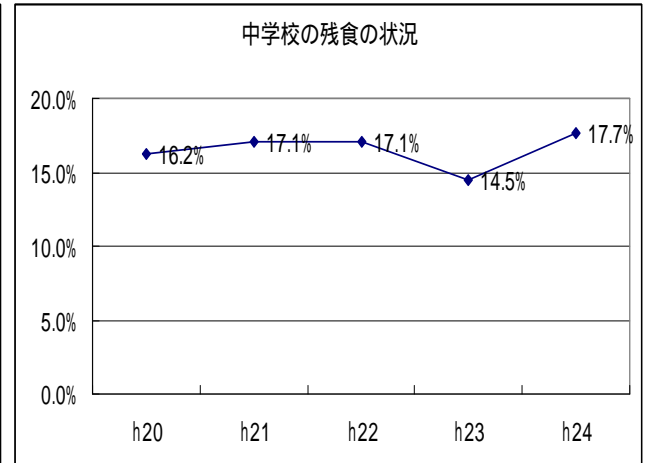
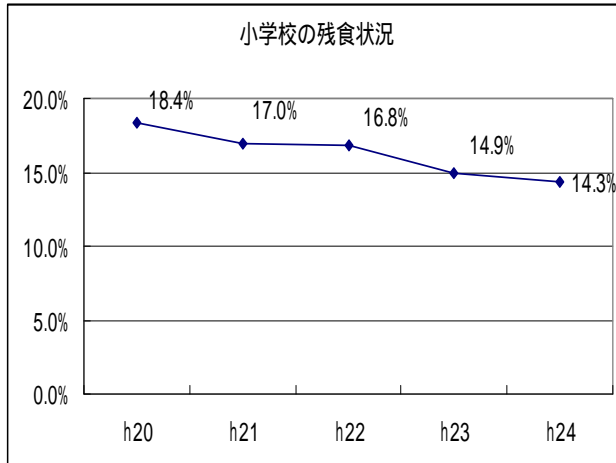
## 視点3 自然への恩恵等の感謝，環境の調和

### 重点行動3 - : 食品の廃棄物の発生抑制と食品リサイクルの推進

#### 食品の廃棄物の発生抑制と食品リサイクルの状況

##### ア．学校給食センターの状況

##### a．残食率の状況



##### b．厨芥類の処理状況

野菜の切りくず及び脱水した残食の厨芥類については，専門業者に処分を委託し，飼料や肥料にリサイクルしました。

単位：kg

年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
処理量	20,370	23,839	23,645	23,755	21,418

##### c．廃食油の処理状況

揚物に使用して不要になった廃食油については，専門業者へ売却処分を行いました。

単位：缶(18)

年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
処理量	170	57	59	66	93

##### イ．生ごみ処理機補助台数

年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
処理機	5	5	5	9	1
コンポスト	59	9	10	12	-